

平成30年度 盛岡大学附属高校 学校自己評価及び学校関係者評価書

1. 今年度の重点目標・具体的な取り組み

学校経営方針	キリスト教主義に基づいて教育を行い、愛と奉仕の精神を体した人格を形成する。
今年度学校重点目標	1) 生徒の豊かな成長を保証する場としての学校づくりを進める。 2) 入学者の定員確保に努め、学習、生徒指導、進路指導等の充実を図る。平和の心を育む教育を推進するとともに、18歳選挙制に対応した生徒の育成に努める。
今年度の具体的な取り組み	1) 受験者数・入学者数を確保する。 2) 活力あるPTA活動の実施とともに、学習活動の環境を確保する。 3) 学力向上に努める。 4) 規律ある学校生活を実現する。 5) 安定した進路実績を実現する。 6) 心身の健康に問題を持つ生徒の早期発見に努め、支援が必要な生徒に対応する。 7) 地域に信頼される開かれた学校づくりに取り組む。

2. 今年度の学校自己評価の結果

	重点目標	具体的方策	自己評価		関係者評価	
			達成状況	改善策	達成状況	改善策
(1) 学校経営	定員数の充足と教育環境に調和した適正な入学者数の確保。	1. 専願推薦入学者120名、一般入試志願者400名を確保する。	A	専願推薦入学者120名は、確保可能と考える。また、昨年度入試の影響があるなか、一般入試も健闘できたと思う。次年度以降も、定員確保を目標に活動したい。	A	A
学校関係者評価委員の意見		専願者120名確保は大きい。本学専願者を育てる教育をして、入学してよかったと思える自尊心を高くしてほしい。生徒の得意な所を伸ばす教育をして欲しい。定員確保の具体的方策必要と考えます。				
(2) 総務・渉外	PTA・教育後援会・同窓会活動の活性化を図り、学習活動環境をより良くする。	1. ・PTA・教育後援会例年行っている活動を継続しながらメール等で周知を図り参加者増を目指す。 ・同窓会広報活動に務める。同窓会名簿の来年完成に向けた資料収集に努める。60周年記念誌発行に協力する。	A	PTA行事は予定通り実施することができている。メールで告知後PTA研修の参加申し込みが増えたので来年度も積極的に告知したい。メールの活用はクラスに差があり、台風による休校、野球の順延、尿検査の案内、PTA研修の案内くらいしか配信できていないクラスが大半である。初めて参加してくれた方がリピーターになってくれることも多いので、総務課によるPTA連絡の活用を更に模索し、活動の広報に努めたい。	B	A
		2. 生徒の学習環境の確保に努め、避難訓練、防災教育の充実を図る。	A	防災復興講話はマンネリ化している感もあるが、生徒の感想は非常に前向きなので意味はあるものとする。更に生徒の心を動かすような講話を企画したい。	A	A
学校関係者評価委員の意見		PTA研修の参加申し込みが増えたことは大変良いことだ。親のニーズに対応した場所の選定、及び研修場所だったと思います。				
(3) 学習指導	自ら学ぶ意欲を育て、学習する習慣を身につけさせる。	1. 教科の特性に応じて「家庭学習課題」を出し、家庭学習習慣の育成に努める。	C	授業アンケートでは、前年度45%の生徒が予習も復習もしないと答えてた。今年度は微減し、40%となった。家庭学習課題は出しているが、部活動の問題や進路意識の弱さ、現状でも進級卒業できるという学校の体制などの改善が必要である。	B	B
		2. 観点別評価を実施し、生徒を多様な視点から評価することで学習意欲を喚起する。	B	多様な生徒を観点別で総合的に評価している。しかし、授業マナーアップ(今年度、違反数と反省文のルールが変化)では特定の生徒が指導されている。授業改善とあわせて進める必要がある。	B	B
	教員の授業力向上を図り、生徒の学力向上に努める。	1. 積極的に校内外の各種研修に参加し、課題の発見と解決に向けた主体的・協働的な学習への指導力向上に努める。	B	各種研修会に積極的に参加したほか、教科の特性に応じてアクティブラーニングに取り組んでいる。しかしまだ個々人の取り組みに終わっている。教科としてのまとまった対応が必要である。	B	B
学校関係者評価委員の意見		授業マナーは入学時点での指導が、大変重要である。早めに目標を見つけて、それに向かって努力する態度を身につけさせたい。				

	重点目標	具体的方策	自己評価		関係者評価	
			達成状況	改善策	達成状況	改善策
(4) 生徒指導	基本的な生活習慣の確立。いじめ問題及び早期発見対策。自転車管理及び整備の徹底。	1. 「遅刻チェックシート」を利用し、遅刻状況の把握及び減少を図る。	B	シートへの確認が担任ごとにばらつきがあり、年度途中で再確認した。	B	B
		2. いじめ防止対策として、学校生活アンケートを実施するほか、個人面談や外部講師を招いての教職員の校内研修を実施する。	B	本年度、いじめ事案が「3件」。早期対応はできているが、いじめへの認知を更に向上させる必要がある。	B	B
		3. 頭髪・服装についてマナーアップ運動をするとともに安全教室、自転車教室等を行い生徒の安全を図る。	B	マナーアップ、講習等の計画は実施できているが、実際に外部からの苦情、校内での盗難が発生している。	B	B
		4. 定期的な自転車点検を実施。	B	全体での点検は1回。その他、随時、点検、整理整頓を実施したが、指導期間以外の整理整頓に課題が残る。	B	B
学校関係者評価委員の意見		生徒のマナーは世間一般の評価に直結する。学習能力が低いことと生活態度が低いことは、相関してほしくない。何事も一生懸命に取り組む態度を養うような指導をしてほしい。				
(5) 保健課	生涯を通じて、健康で安全な生活を送るための基礎を培い、たくましく生きていけるように実践能力を育成する。	1. 「健康生活5か条」を意識して生活するよう指導する。睡眠、スマホ等についてのアンケートを実施し、生徒自身の生活の振り返りに役立てると同時に現在の実態を把握する。	A	・「健康生活5か条」を変更。スマホ等の使用についての項目を追加した。担任からの指導の他、保健便り、全校の集会時を利用して指導した。 ・10月末にアンケートN01を実施。その後、担任から指導してN02を実施した。 ・睡眠については、平日の就寝時間、睡眠時間共に前年度より良くなっている。 ・スマホ等の使用については、長時間使用している生徒が多い。特に、休日は、「5時間を超えて使用」が、約半数を占める。健康被害の指導だけでは、改善は難しい。学校全体で取り組む必要がある「健康生活5か条」の意識化共に実行するためのさらなる指導が必要。	A	A
		2. 心身の悩みや生活の乱れ等による来室者に対し、面談したり改善策を一緒に考えたりし、自分で解決していけるよう支援する。	A	体調不良を訴えて来室する生徒の多くは、生活の乱れや精神的なことから症状が出ている場合が多い。また、気持ちが不安定で来室する生徒も少なくない。出来るだけ一人一人時間をとり、話を聞いたり一緒に考えたりした。障害や病気を持つ難しい生徒が入学している。人と関わることが苦手な生徒や家庭の問題を抱えている生徒も少なくない。個別に対応する余裕が必要である。	A	A
学校関係者評価委員の意見		とても丁寧な対応をされていると思います。個々に様々な特徴を持つ生徒が多くなっている中で、行事や生徒会活動を通じて、仲間との関係を築いてほしい。又、その中で心の支えとなるようサポートを充実させてほしい。スマホの扱いは今後の課題でもある。				
(6) 相談課	学校生活において、生徒を中心にした学習、生活、進路などの相談を実施し、安心感のある生活が送られるようサポートする。	1. サポート室登校の生徒に対し、効果的な学習指導や進路指導の実施を継続する。	A	各教科の協力的体制のもと、60～70%の単位を授業形式で実施した。各クラス担任からの指導も的確に行われ、充実した連携が取れた。	A	A
		2. サポート室の利用者に寄り添い、個々の悩みに対して適切な対応をとる。	A	サポート室担当者を中心に適正な運営が図られた。また、保健課の応援に負うところが大きかった。	A	A
		3. スクールカウンセラーによる月2回のカウンセリングを通し、生徒・保護者・教員の心の安定に寄与する。	B	ほぼ計画通りに実施したが、カウンセリングの利用拡充のための啓蒙に工夫を加えたい。	B	B
学校関係者評価委員の意見		どんな生徒も落ちこぼさずに次の進路につなげてほしい。				

	重点目標	具体的方策	自己評価		関係者評価	
			達成状況	改善策	達成状況	
(7)進路指導	生徒一人ひとりが自己の特性と能力を知り、それらを生かす進路の発見と、可能にする基礎学力・実践的な行動力を育成する。	1. 盛岡大学・同短期大学部をはじめとする、上級学校への進学率を3学年の8割以上を目標とする。	B	進学・教進コースの児童教育学科、幼児教育学科の志望者を増やすようにしたい。また、進学コースからの盛岡大希望者が増えるようにしたい。	B	B
		2. 進学コース・教進コースにおいても、センター試験を受験させ特進コースと合わせて、国公立大学進学希望者の4割の合格を目標とする。	B	国公立大学の合格者を増やすためには、更なる学力の向上と希望する大学のAO対策、推薦対策のきめ細かい指導が必要と考えられる。	B	B
		3. 基礎学力の定着を目的にした、マナトレ朝学習として通年で実施する。その成果を、進路マップを用いて分析する。	B	基礎学力の定着を考えた指導を1年間実施できた。さらなる取り組みに力を入れたい。又、進路マップで結果に表れるよう長期休業中の取り組み方を検討したい。	B	B
学校関係者評価委員の意見		大学・短大の進学向上に努めて欲しい。附属高校として、盛岡大学・短期大学部の入学者を増やす努力が必要だと思います。				
(8)家庭・地域との連携	地域に信頼される開かれた学校づくりに取り組む。	1. 生徒による地域行事やボランティア活動への参加を奨励し、地域との交流を、さらに図る。また、それらの活動内容を広く保護者等に知らせる。	A	ボランティア委員会、教育系大学進学コース、野球部・柔道部等を中心に活発な活動がなされている。	A	A
		2. 年2回の三者面談を中心に、家庭との連携を密にした学校運営を心掛ける。	A	アンケートの結果においても、ほぼ昨年同様の結果。	A	A
学校関係者評価委員の意見		ボランティアを通じて、社会的弱者と言われる人たちに対する思いやりの心（人間性）が育つと思われる。社会に必要な力をつけてほしい。				
(9)学校独自の活動	建学の精神に基づき広くキリスト教主義の理解を広める。	1. 全職員・生徒が出席し全校礼拝を実施する。出席者は聖書・讃美歌を持参する。	B	宗教委員による持参点検をする。	B	B
		2. 司会・会場準備等礼拝の運営は宗教委員が中心に行えるよう指導する。	A	会場準備は野球部の生徒の協力により実施されている。又、司会については、宗教委員が行っている。	A	A
		3. 説教者を確保し、礼拝での説教をしていただく。	A	二人の説教者の打ち合わせができています。	A	A
学校関係者評価委員の意見		今後も高校の教育目標である「愛と奉仕」を基本精神として、更に人間教育を充実させて欲しい。				